

更新しました

令和3年3月

みんなでやってみよう！！

福祉教育プログラム

～学校・地域版～



社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会

はじめに

私たちの住む地域では、多様な立場の人が暮らしています。それぞれ得意なこともあれば、苦手なこともあります。お互いの苦手な部分を助けあい、みんなで支えあう事が地域福祉の基本です。

伊賀市社会福祉協議会では、平成 27 年度にさまざまな人のお力を借りて福祉教育推進指針を策定し、福祉教育を推進する、みちしるべにしています。

平成 30 年には、身近に福祉教育を感じてもらえるよう、「みんなでやってみよう！福祉教育プログラム」を作成し、取り組みを進めてきました。

世の中には防災教育、道徳教育、情報教育、こころの教育など、「教育」のつく言葉が数多くあります。

福祉教育とは何でしょうか。福祉教育が意味する範囲はとても広く、一言では言い表せませんが、福祉教育推進協議会、伊賀市社会福祉協議会としては「一人ひとりが尊重され、ともに助け合い、安心して暮らせる共生社会の実現のために、子どもから大人までのあらゆる世代が、ふだんの暮らしの中で気づきや学び合うこと」と考えました。

今回、福祉教育を更に推進するために、プログラムを更新しました。

学校現場や地域の中で、誰もが楽しくわかりやすく「福祉教育」を考えてもらえるようなプログラムを紹介しています。

地域や学校、職場等で、福祉教育の視点に立った地域福祉活動の推進にこの福祉教育プログラムをご活用いただければ幸いです。



令和3年3月

第3次伊賀市地域福祉活動計画「福祉教育推進協議会」

社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会

・目次・

- No. 1 カードゲーム「ぼうさいダック」
- No. 2 防災ハンドブック
- No. 3 地域のボランティア活動を知ろう
- No. 4 ふくしクイズ
- No. 5 みんなちがって、みんないい

- No. 6 障がい理解ワークショップ
- No. 7 わくわく「クイズかるた」
- No. 8 高齢者疑似体験
- No. 9 アイスブレイク
- No.10 探してみて！ユニバーサルデザイン

- No.11 もしもに備える防災リズム「歩一歩たいそう」
- No.12 新聞スリッパづくり&がれき体験
- No.13 防災すごろくゲーム
- No.14 ふだんのくらしをしあわせにする「4つの窓」
- No.15 カードゲーム教材「クロスロード」

- No.16 お☆ふくろめし
- No.17 災害サバイバルアイテムづくり
- No.18 社協のしごと ふくしって何？
- No.19 タイムトラベルボード～10年後の自分のくらし～
- No.20 認知症(キッズ)サポーター養成講座

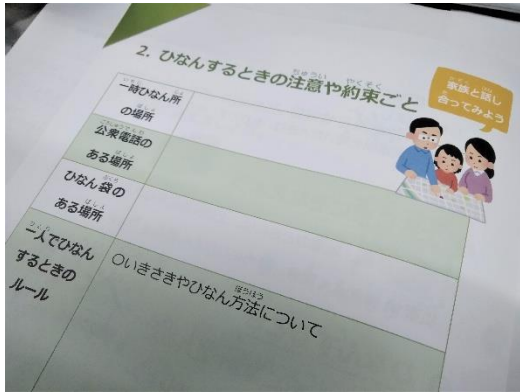
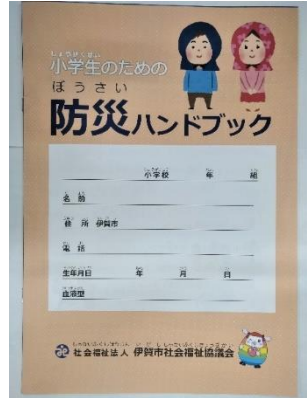
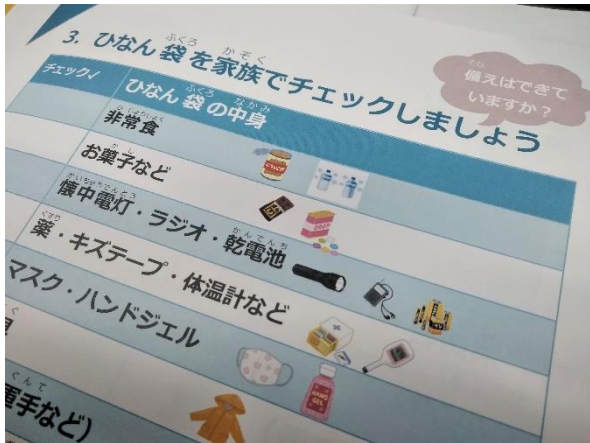
- No.21 出合いの授業
- No.22 赤い羽根共同募金を知ろう
- No.23 避難所運営ゲーム「避難所 HUG」
- No.24 やさしさを広げる ～新型コロナウイルスから考える～
- No.25 助け合い体験ゲーム

- No.26 ヒラメキカード

カードゲーム「ぼうさいダック」

カテゴリー	防災
目的	・実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学ぶ ・楽しみながら繰り返しゲームをするうちに、安全や安心への「最初の第一歩」が自然と身につくことをめざす
内容	実際に身体を動かし、声を出して遊びながら、防災や日常の危険から身を守ることや、あいさつやマナーといった日常の習慣について学ぶ。カードには、防災や日常の危険から身を守ることが学ぶものだけでなく、挨拶やマナーといった日常の習慣を学べるものも含まれています。
必要時間	15～30 分
手法	実技
準備物	特になし

防災ハンドブック

カテゴリー	防災
目的	・いざという時の災害時に備えるため、防災について学ぶ
内容	「小学生のための防災ハンドブック」を使って、防災について学ぶ 避難袋の中身を話し合う 家庭内で防災の話をするきっかけにする（連絡先、避難所）   
必要時間	45分
手法	実技・体験
準備物	なし

地域のボランティア活動を知ろう

カテゴリー	地域福祉
目的	・ボランティア活動について知る ・ボランティア活動者の思いを聞く
内容	ボランティア活動について学ぶ。 地域のボランティア活動を知る。（配食、食事サービス、地域食堂、サロンの運営など） ボランティア活動者に話を聞く。（歴史、きっかけ、思い、内容など） 
必要時間	30～45 分
手法	講義
準備物	なし

ふくしクイズ

カテゴリー	地域福祉
目的	・福祉を身近に感じる ・クイズを楽しみながら、福祉を学ぶ
内容	福祉に関する問題をクイズ形式で楽しく学ぶ。 (例)高齢者とは 75 歳以上？ →○or×   ふくしクイズ 高齢者とは75歳以上？ ○or× 
必要時間	15～30 分
手法	講義、実技
準備物	なし

みんなちがって、みんないい

カテゴリー	対象者理解
目的	・みんなちがっていいことを理解する
内容	① 一分間ゲーム (心の中で1分数えて、1分たったらその場で静かに座る。 感じ方や思いがみんな違うことを体験する)  ② 出合いのジャンケン (同じ人とはジャンケンをしないように、いろんな人とジャンケンをする。 5回勝った人から、順番に並んで輪を作る。負けた人の方が多くの出合いがある) ③ 「しあわせ」を絵にかいてみよう ・しあわせについて考える。違いを理解する導入として学ぶ。 ふくし＝ふだんのくらしのしあわせ。 「しあわせ」を一言で言うと同じように感じるが、絵に描くと、それぞれが 感じる「しあわせ」は異なることを学ぶ。 
必要時間	30～60 分
手法	講義、実技
準備物	①、②なし ③画用紙、絵具等

障がい理解ワークショップ

カテゴリー	対象者理解
目的	・困難さがあっても周りや地域のサポートがあれば、その人らしい暮らしが送れることに気付く ・誰もが力になれることに気付く
内容	① 目隠しジャンケン (起立して、目をつむって、前にいる講師(目があいている)とジャンケンをする。「ジャンケンポン」でジャンケンをして、講師が、「〇〇を出した」と言う。児童・生徒は、勝ったときだけそのまま立ったままで、負けるか、あいこの場合は座る。相手を信頼することを学ぶ。) ② 絵合わせ (アイマスクを使用して2人または3人1組で絵合わせを行う。片方はアイマスクを使用せずにうまく完成するように伝える。サポートがあればできることを学ぶ。) ③ 集合ゲーム (講師が「〇〇な人、集まってください」と言う。声を出さずに、同じ仲間を捜してグループを作る。集まったら、その場で座る。※紙に書くことや声を出すことは禁止。言葉以外のコミュニケーションを学ぶ。) ④ 名前をかいてみよう！ (枠の中に右手と左手で、名前を書いてみて、違いを学ぶ)  左手で書いた 自分の名前  右手で書いた 自分の名前 
必要時間	30～60 分
手法	講義、実技
準備物	なし

わくわく「クイズかるた」

カテゴリー	対象者理解
目的	・福祉、環境、国際理解に関する言葉と出会う ・興味を持ったことについて、自主的に調べる力を引き出す
内容	グループで行う参加型ワーク。読み札がクイズになっており、読み上げて、答えのカードをとる。 (例) 耳の不自由な人の言葉の一つとして使われているものってなあに？ 答え：手話

高齢者疑似体験

カテゴリー	対象者理解
目的	・加齢や病気等による身体的な変化(筋力、視力、聴力などの低下)を知る ・高齢者の気持ちや介護方法、高齢者とのコミュニケーションを学ぶ ・高齢者の使いやすいものづくりや工夫、安全なまちづくりなどについて学ぶ
内容	疑似体験装具を身に着けて、日常生活動作を疑似体験する。   
必要時間	45～90 分
手法	講義、実技
準備物	なし

アイスブレイク

カテゴリー	アイスブレイク
目的	場の緊張を和らげて、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作る
内容	① 思いやりのいすとりゲーム 全員がいすに座れるように協力する。  ② バースデーチェーン 4月1日生まれから3月31日生まれの順に並び替えるゲーム。 ルールは、一言もしゃべってはいけない。 ジェスチャーで誕生日を相手に知らせ、並んでいく。  ③ フラフープ(ヘリウムリング) 6～10人のチームで、1つのフラフープを囲む。 フラフープを利き手の人差し指の第一関節に乗せる。 みんなでフラフープを地面に置く。目標は5分以内。 チームワークを育む。 
必要時間	①、②、③ 各 15 分
手法	実技
準備物	① 椅子 ②なし ③フラフープ

探してみて！ユニバーサルデザイン

カテゴリー	ユニバーサルデザイン
目的	・だれもが自由に社会参加できるユニバーサルデザインのまちづくりに ついて考える
内容	ユニバーサルデザインとは、すべての人が快適に利用できるよう、施設 や製品、情報等をデザインすること。 プログラム例 ①身近にどんなものがあるか探してみよう 例)アルミ缶、シャンプーとリンスの容器 ②「ユニバーサルデザイン」を体験してみよう 例)文房具、エレベーターのボタン、ピクトグラム  
必要時間	30～90 分
手法	講義、実技
準備物	特になし

もしもに備える防災リズム「歩一歩たいそう」^{ほ い っ ぽ}

カテゴリー	防災
目的	・安全と安心について、楽しみながら学ぶ ・過去の教訓から防災を学ぶ
内容	災害をはじめ、犯罪や事故など、私たちの生活の中にあるあらゆる危機への備えをまとめた「歌と健康体操」 (例)地震、火事、台風、洪水、ひったくり等、12番まであります 「うさぎとかめ」のメロディで歌う。 ◆お問い合わせは… 伊賀市社会福祉協議会 (三重県) 電話 0595 (21) 5866 F A X 0595 (26) 0002
必要時間	15～30 分
手法	実技(体操)
準備物	CDラジカセ または、プレーヤー

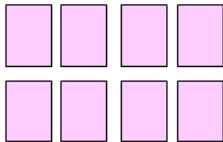
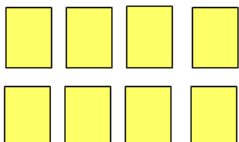
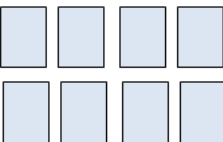
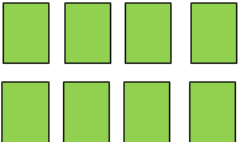
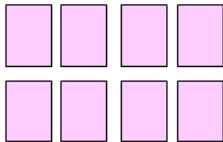
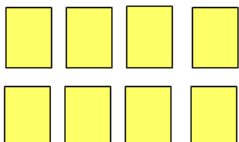
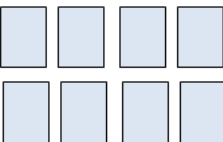
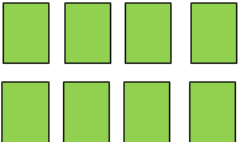
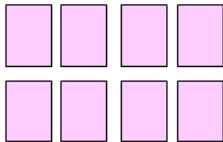
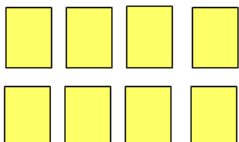
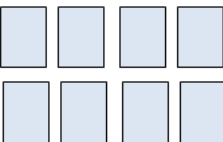
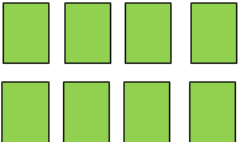
新聞スリッパづくり&がれき体験

カテゴリー	防災
目的	・いざという時の災害時に備える ・身近な物を使用しながら、防災について学ぶ
内容	新聞でスリッパ作りと簡単がれき体験 (新聞紙でスリッパを作り、卵の殻をがれきに見立て、殻の上を歩いて体験する。) 
必要時間	20～30 分
手法	実技・体験
準備物	新聞、卵の殻、ブルーシート

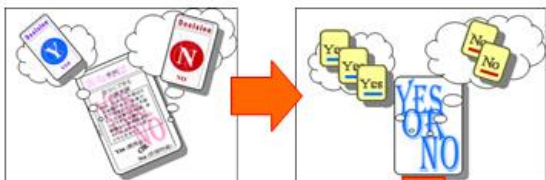
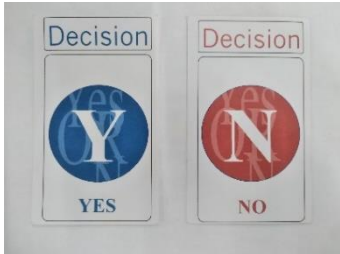
防災すごろくゲーム

カテゴリー	防災
目的	・いざという時の災害時に備える ・身近な物を使用しながら、防災について学ぶ
内容	防災すごろくゲーム (すごろくゲームを楽しみながら、災害時の知恵や工夫を学ぶ。) 
必要時間	45～60 分
手法	実技
準備物	なし

ふだんのくらしをしあわせにする「4つの窓」

カテゴリー	地域福祉				
目的	・日頃感じている悩みやお互いができることについて話し合う ・今後の活動にむけてのきっかけにする				
内容	① あなたのまちのいいところ(ピンク) ②あなたのまちの困っていること(青) ③こんなまちであつたらいいな(黄色) ④今、あなたが地域でできること(黄緑) <table border="1"> <tr> <td> ①あなたのまちのいいところ(ピンク)  </td> <td> ③こんなまちであつたらいいな(黄色)  </td> </tr> <tr> <td> ②あなたのまちの困っていること(青)  </td> <td> ④今、あなたが地域でできること(黄緑)  </td> </tr> </table> 	①あなたのまちのいいところ(ピンク) 	③こんなまちであつたらいいな(黄色) 	②あなたのまちの困っていること(青) 	④今、あなたが地域でできること(黄緑) 
①あなたのまちのいいところ(ピンク) 	③こんなまちであつたらいいな(黄色) 				
②あなたのまちの困っていること(青) 	④今、あなたが地域でできること(黄緑) 				
必要時間	30～60 分				
手法	実技				
準備物	なし				

カードゲーム教材「クロスロード」

カテゴリー	防災、見守り
目的	・相互に意見を交わし、考え方の違いを学ぶ ・防災を「他人事」ではなく「我が事」として考える
内容	カードに書かれた事例を自分の問題として考え、YES か NO かで考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進める。5～7人のグループで話し合う。子ども用もあります。 (例)防災 あなたは：市民 大きな地震のため、避難所(小学校体育館)に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼い犬“もも”(ゴールデンリリーバー、メス 3 歳)がいる。一緒に避難所に連れて行く？ →YES「連れて行く」 NO「置いていく」 理由は？ クロスロードの基本ルール 1 YesかNoカードどうしよう...? 2 決断してY/Nカードを裏向けで  3 オープン...!  4 多数派⇒青座布団ゲット！ 金座布団は！?  
必要時間	45～90 分
手法	実技
準備物	景品用お菓子(飴など)

お☆ふくろめし

カテゴリー	防災
目的	・いざという時の災害時に備える ・身近な物を使用しながら、防災について学ぶ
内容	防災ごはん「お☆ふくろめし」 (ポリ袋を使用して、少量の水でお皿を汚さず、ごはんやおかずを作る。)  
必要時間	40 分～(内容に応じて)
手法	実技・体験
準備物	食材(米など)、ポリ袋(高密度ポリエチレン)、調理器具(鍋など)

災害サバイバルアイテムづくり

カテゴリー	防災
目的	・いざという時の災害時に備える ・身近な物を使用しながら、防災について学ぶ
内容	災害サバイバルアイテムづくり (災害時に役立つ、段ボールトイレや空き缶コンロなど、子どもから大人まで簡単に作れるサバイバルアイテムを制作する。) ①段ボールトイレ  ②空き缶コンロ  
必要時間	①②ともに、30～45 分
手法	実技・体験
準備物	① はさみ、カッターナイフ、マジック、段ボール ② はさみ、マジック、空き缶、ティッシュ、アルミホイル

社協のしごと ふくしって何？

カテゴリー	地域福祉
目的	・福祉を身近に感じてもらう ・福祉について知ってもらう
内容	福祉の仕事を分かりやすく紹介する。 伊賀市社協の仕事など 施設見学、交流 「ふくし」ってなんのこと?? ふ く し ふだんの くらしを しあわせに   車いす や レクリエーション道具の貸出  しゃきよう 社協ってどんなところ?? あんしん みんなが安心して くらせるように ふくしのまちづくりを すすめています!!  
必要時間	15～30 分
手法	講義
準備物	なし

タイムトラベルボード ～10年後の自分の暮らし～

カテゴリー	地域福祉
目的	・地域の見守りを考える ・これからの地域について考える
内容	現在の家族構成(年齢・名前)や移動手段(車、自転車等)と、両隣のご近所の方の家族構成(年齢と名前)を用紙に書き入れて、シートを作成する。 そのあと、10年後を予想して同様にシートを作成し、気づきを踏まえて将来の理想を想像し、そのための具体的な方法や手段を考える。
必要時間	60～90 分
手法	実技
準備物	はさみ、のり、筆記用具

認知症(キッズ)サポーター養成講座

カテゴリー	対象者理解
目的	・認知症や高齢者に対する理解を深める
内容	地域で認知症の方やその家族を見守り、応援できるサポーターの養成をする。講座修了者には、認知症サポーターの証、オレンジリングを配布。
必要時間	60～90 分
手法	講義、実技
準備物	なし

出会いの授業

カテゴリー	対象者理解
目的	・さまざまな人との出会いの中で、自分たちができることを考えるきっかけにする
内容	当事者や、福祉・介護に関わりがある人の話を聞く。    
必要時間	45～90 分
手法	講義
準備物	なし

赤い羽根共同募金を知ろう

カテゴリー	共同募金
目的	・楽しみながら、共同募金を学ぶ
内容	赤い羽根共同募金について、クイズや紙芝居を通して、歴史や使い道を学ぶ。 (例)ミッキーマウスは悪者と戦う時赤い羽根をつけていた？ →○or× 共同募金クイズ  Q1 羽根を使った募金は7種類(赤、青、黄、白、緑、水色、黒)あった？ Q2 共同募金のルーツは、はるか昔のスイスの山深い町の牧師さんからはじまった？  
必要時間	15分～30分
手法	講義、実技
準備物	なし

避難所運営ゲーム「避難所 HUG」

カテゴリー	防災
目的	・避難所の運営をしなければならない立場になったとき、殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いか、避難所運営を考える
内容	避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。 HUGはH(避難所)、U(運営)、G(ゲーム)の頭文字をとったもので、英語で「抱きしめる」という意味。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けた。 126 世帯番号【26】 北山1997【北山1班】 あわじ 淡路さん 【男40歳】被害なし 母、世帯主、妻、長女 真山に崩壊の恐れがあり避難指示が出たため避難してきた。車で来たので、その中で生活するよ。 161 世帯番号【33】 【男?歳】 ホームレスの男性 避難所に食事があると聞いて来た。 125 イベント番号【21】 災害対策本部ですが、炊き出し用の鍋、釜、食器などが21時に到着します。炊き出し場を決めておいてください。 184 イベント番号【30】 災害対策本部ですが、間仕切り50枚が明日到着します。置き場所がありますか。 
必要時間	60～90 分
手法	実技
準備物	なし

やさしさを広げる ～新型コロナウイルスから考える～

カテゴリー	人権
目的	・コロナ禍の今、福祉教育を通して、自分の生活を含めた社会を考え、人権意識を高め、共生にむけた態度を学びによって形成する
内容	コロナ禍での、やさしさや思いやりについて学ぶ。 全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター あなたのまちで やさしさをひろげるために ～思いやり・つながり・支えあう～  新型コロナウイルスから考えてみよう やさしさをひろげて いくために あなたの周りにいる人は、どんな気持ちで毎日を過ごしているでしょうか。 ・あなたの家族やお友達 ・一人で暮らしているお年寄り ・小さな子どもがいる両親 ・多くのお客さんと接するお仕事をしている人 ・福祉施設や病院で働いている人 ・治療のために入院している人 私たちのなかにやさしさを広げることが やさしいまちをつくることにつながります。  
必要時間	45分
手法	講義、ワーク
準備物	なし

助け合い体験ゲーム

カテゴリー	地域福祉
目的	・自分や参加した人たちの「できること」「してほしいこと」を出し合うことで、気づかなかった能力やニーズに気づく。 ・助け合いのうれしさ、楽しさを実感できる。 ・グループで行うことで、顔が見える関係ができ、本音を話し合い、参加者同士の距離が近くなる。 ・「助けて」と言えることの大切さ、難しさまでも体験できる。
内容	・サービスカードは各テーブルに全部で 180 枚(60 種類×3 枚) ・各自、助けてほしいと思う困りごとを 3 枚選び、『誰かこれをしてくださいませんか』と、グループ全員にカードを見せながら、交渉をする。助けられる人はカードを受け取る。  
必要時間	30～60 分
手法	実技
準備物	なし

ヒラメキカード

カテゴリー	地域福祉
目的	・発想を導き出す ・成功事例を、分析して考える
内容	地域の福祉課題(困っていること)を共有し、わたしたちにできそうな活動やアイデアを考える。 (例)「地域のイベントをもっと工夫できないか」あるいは「サロンの新しいメニューは何かないか」などの話題になったとき、このカードをきっかけに、考える。 
必要時間	30～60 分
手法	講義、実技
準備物	なし

福祉教育依頼書(学校用)

学校名			
担当者名		連絡先	
住 所	〒51 ー 伊賀市		
希望 プログラム			
学校側の 目的(ねらい)			
希望日時	第1希望	月 日 ()	: ~ :
	第2希望	月 日 ()	: ~ :
会 場			
対象学年		人数	名
備考			

【申込・お問い合わせ先】

社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会

上野地域センター	TEL 21-1112	／	FAX 21-8123
いがまち地域センター	TEL 45-1012	／	FAX 45-1050
島ヶ原地域センター	TEL 59-3132	／	FAX 59-3145
阿山地域センター	TEL 43-1854	／	FAX 43-1577
大山田地域センター	TEL 47-0780	／	FAX 46-1165
青山地域センター	TEL 52-2999	／	FAX 52-3555

福祉教育依頼書(地域用)

団体名			
担当者名		連絡先	
住 所	〒51 ー 伊賀市		
希望日時	第1希望	月 日 () : ~ :	
	第2希望	月 日 () : ~ :	
会 場			
対象者		人数	名
希望 プログラム			
備考			

【申込・お問い合わせ先】

社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会

上野地域センター	TEL 21-1112	／	FAX 21-8123
いがまち地域センター	TEL 45-1012	／	FAX 45-1050
島ヶ原地域センター	TEL 59-3132	／	FAX 59-3145
阿山地域センター	TEL 43-1854	／	FAX 43-1577
大山田地域センター	TEL 47-0780	／	FAX 46-1165
青山地域センター	TEL 52-2999	／	FAX 52-3555

■ 高齢者・障がい者のイメージ

年 組 名前

勉強する前

勉強してから

一番心に残ったこと

これからやってみたいこと

